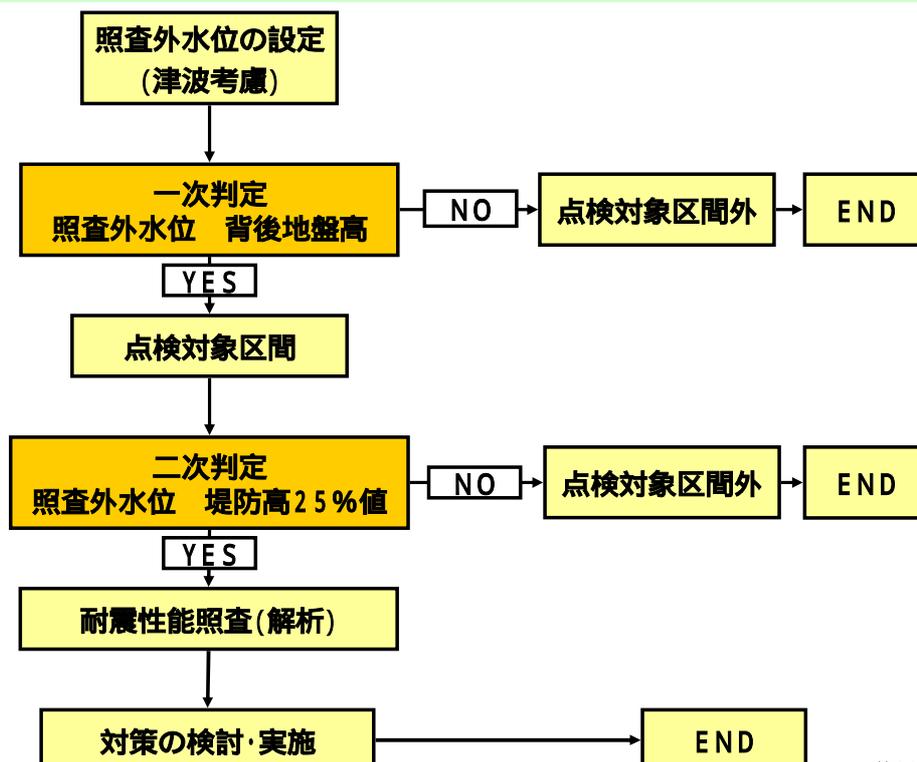


第13回流域委員会(H21.2.27)での黒田委員からの質問

大和川堤防の耐震性の調査の現状と計画
について

耐震性能点検の進め方フロー

平成19年「河川構造物の耐震性能照査指針(案)」を基に作成した検討フロー



大和川堤防耐震調査の現状と計画

平成19年7月 大和川・佐保川 **一次判定**
照査外水位と背後地盤高の比較により、点検対象区間選定。



平成20年度 大和川 **二次判定**
佐保川 **二次判定・耐震性能照査(解析)**
照査外水位と堤防高が25%まで沈下した時の高さとの比較により、
点検対象区間を選定。
佐保川については、二次判定の結果について耐震性能照査を行い
対策必要箇所に該当しないことが確認された。

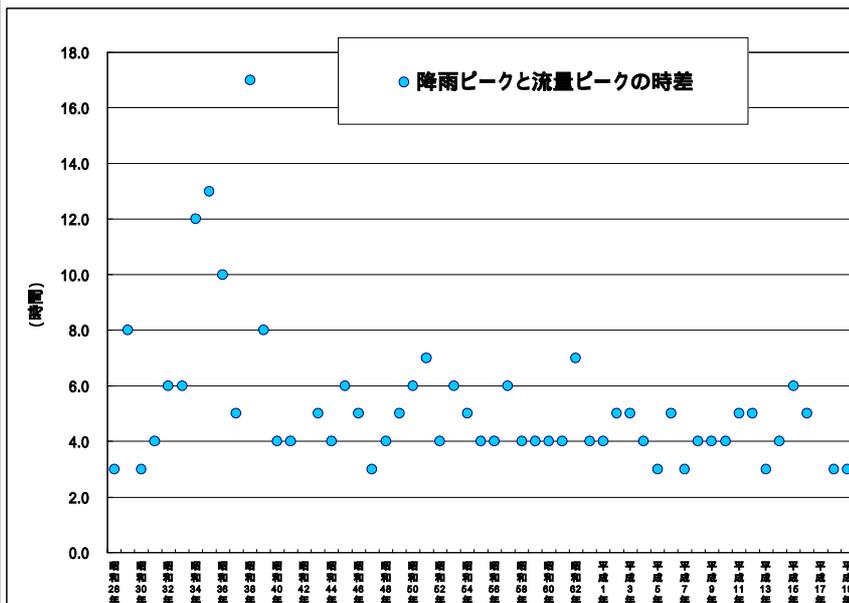


平成21年度 大和川の**耐震性能照査(解析)**を実施する予定

第13回流域委員会(H21.2.27)での黒田委員からの質問

降雨量のピークと河川流量のピークの時間差が近年短縮されている状況とその原因について

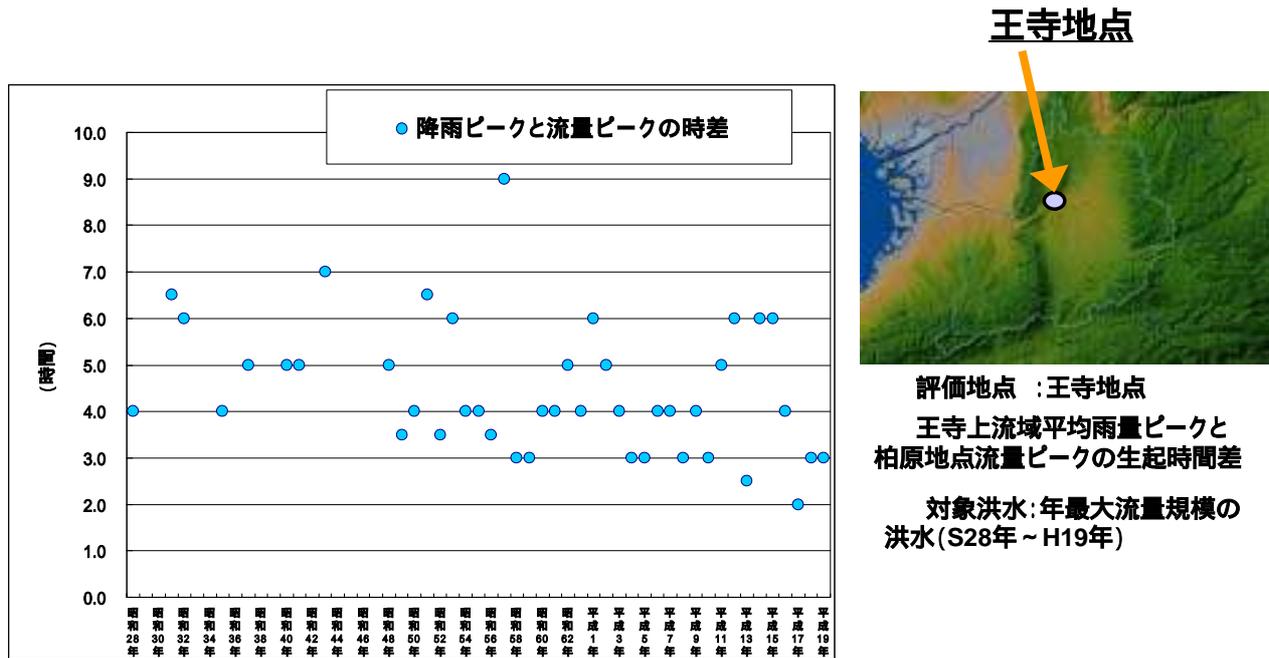
柏原地点におけるピーク雨量とピーク流量の時刻差の関係



評価地点 : 柏原地点
 柏原上流域平均雨量ピークと
 柏原地点流量ピークの生起時間差
 対象洪水: 年最大流量規模の
 洪水(S28年~H19年)

柏原地点の時刻差は3時間から6時間程度

王寺地点におけるピーク雨量とピーク流量の時刻差の関係



王寺地点の時刻差は3時間から6時間程度

・上流域では市街化が進行していること、また河川改修が進んでいることから洪水の到達時間が早くなっていることを推定。

・河川整備基本方針では、最新のデータやこれまでの知見をもとに、将来の土地利用や河川整備の状況を想定し流出計算を実施

【基本方針本文抜粋】

大和川中上流域では、著しく市街化が進行していることに鑑み、河川改修のみならず、流域での保水・遊水機能を適切に維持・確保するために、下水道管理者、地方公共団体等関係機関、市民と連携し、流域内で貯留・浸透による流出抑制を推進するとともに、土地利用計画や都市計画との調整等を図り、流域が一体となった総合的な治水対策を推進する。

洪水遅れ時間の算定(平成7年7月洪水)

